

# 日本人にとって難解な中国語文法について<sup>1)</sup>

郭 春 貴

(受付 2001年10月11日)

## 0.

中国語は日本語と同じく漢字を使っているのだから、見れば大体の意味がわかるかと一般の学生には思われている。確かに見慣れた漢字を使っているのだから、日本人にとっては勉強しやすい外国語の1つと言えよう。ところが、中国語の音声には4つの声調があり、音の高さによって意味が違ってくることが日本人にとって大変難しいということが、今までによく指摘されてきた。しかし、その発音も音感がよければ、あるいはよい教師について勉強すれば、ある程度はマスターできると思われる。

問題は文法である。初級ならまだしも、中級以上となるとなかなかわかりにくい。きれいな発音でありながら、使っている中国語がどこか中国人と違って、なぜ違うのかわれわれ教師でも、ネイティブの中国人でも説明できないことが少なくない。

本論文は筆者が長い年月で得た教学経験から、日本人にとって難しい文法について論じようとするものである。

## 1.

外国語を学ぶ時、自分の母語にない文法や表現法はなかなか習得しにくいものである。日本人が中国語を学ぶ時にも、日本語にない中国語の文法については、やはり理解しにくく、習得しにくいと思われる。たとえ理解

---

1) 本論文は2001年8月10日、第一回国際対外中国語教学語法討論会において、中国語で発表したものに基いて書き直したものである。会議中、会議後に諸先生方々から多大なる助言と意見をいただき、特にハーバード大学の劉月華先生及び北京大学の馬先生から貴重な意見をいただき、心から感謝致す。

できてもなかなか使いこなせない。もちろんこれは逆に、中国人が日本語を習う時にも、中国語にない日本語の文法表現について、なかなか習得できないのと同じである。

今まで、中国語文法の主な難点は虚詞の用法であると言われてきた。確かに助詞“了”“着”“把”“就”などの虚詞は日本人にとって厄介なものと言わざるを得ない。しかし、この十数年間の研究によって、これら虚詞の用法もかなりわかりやすくなり、また、日本語に訳す時にも、なんとか対応する表現形式が確立され、学生が徐々に使えるようになったことが学生の作文や会話の表現から伺うことができる。

ところが、中級以上のレベルになると、数量詞の特別な用法（例えば“我给你提个醒。”の“个”）や語気副詞の用法（“倒”“又”“才”など）、重ね型の用法については、日本語に訳しにくく、また十分な研究がなされているとも言えず、日本人学習者にとって悩みの種であると思われる。

本論文は特にこの数量詞と語気副詞、重ね型、補語という4つの用法が、なぜ日本人にとって難しいか、どのようなところが難しいかについて問題を提起したい。

## 2. 数量詞

「数量詞」が1つの品詞ではなく、「数詞＋量詞」という連語構造であることは言うまでもない。量詞は単独で使えず、必ず数詞と一緒に連語構造を作って、名詞を修飾する。この連語は日本人にとって簡単どころがあれば、難しいところもある。中国語の数詞は日本語とほとんど同じく、量詞は違って、概念が同じなので、欧米人よりは簡単と言えるだろう。しかし、以下の点は日本人の学習者にとって大変難しいのではないか。

### 2. 1 抽象名詞に合う量詞はどのように決まるか。

日本語は抽象名詞に量詞を使わないので、中国語の抽象名詞にどの量詞を使うか、かなり戸惑うのではないか。例えば、

郭：日本人にとって難解な中国語文法について

- (1) 突然飘来了一股香味。(突然よい香りが漂ってきた)
- (2) 我脑子里一片空白。(私の頭は真っ白だ)
- (3) 昨天我饱受了老师的一顿批评。(昨日先生に叱られた)
- (4) 只要有一线希望我也不会放弃的。(希望さえあれば、あきらめない)
- (5) 那时我感到一阵惊喜。(その時私は驚いたが嬉しかった)
- (6) 她脸上露出了一丝笑意。(彼女の顔に笑いが出た)

以上の中国語には抽象名詞の前に数量詞があるが、日本語の訳文にはない。どのような数量詞がどのような抽象名詞に合うかは理屈ではない。(1)の“香味”(香り, 匂い)はなぜ“一股”を使わなければならないか、なぜ“一团”や“一片”ではいけないのか。(2)の“空白”(空白, 真っ白)もなぜ“一片”でなければならないか。“一团”“一扬”“一阵”ではなぜいけないのか。(3)の“批评”(叱る)の前の“一顿”は動量詞だが、同じ動量詞である“一下”“一回”ではなぜいけないのか。(4)の“希望”も(5)の“惊喜”も(6)の“笑意”の数量詞も日本人には馴染みがなく、とても理解しがたいもので、そのまま覚えるしかないということになる。

## 2. 2 「一+量詞」の用法

日本語は話し手と聞き手が互いに目的語が単数であることがわかれば、数量詞を使わない。その影響か、次のような誤文を作ってしまう。

- \* (7) 我家前边儿有河。(家の前に川がある)
- \* (8) 前边儿来了人。(前から人が来た)
- \* (9) 昨天我看了电影。(昨日映画を見た)
- \* (10) 她有好妈妈。(彼女はいいお母さんがいる)

日本語は数量詞が要らないのに、中国語は数量詞がないと誤文になってしまう。一体どういう時に数量詞が必要なのか。郭(1995)<sup>2)</sup>で次の3つの

---

2) 郭春貴 1995 「日中両国語の数量詞の用法の相違」

状況において日本語では数量詞が要らないが、中国語では必要であると分析した。

A. 所有と存在の目的語は単数も複数も数量詞が必要である。(7) は「家の前に存在する川」なので、その川が 1 本か 2 本かはっきり言うために数量詞をつけなければならない。つまり、“我家前边儿有一条河。”と言わなければならない。(8) の存現文「前から人が来た」も数量詞が要求され、“前边儿来了一个人。”と言うべきである。

B. 過去に行われた動作の目的語は単数も複数も数量詞が必要である。(9) の「映画を見た」は過去に行われた動作なので、「映画」が 1 本か 2 本かはっきり言う必要があり、“昨天我看了一个电影。”と言わなければならない。

C. 目的語の前に修飾語があれば、その修飾語の前に数量詞が必要である。(10) の目的語“妈妈”の前に修飾語“好”があるので、数量詞の“一个”が必要であり、“她有一个好妈妈。”と言わなければならない。

以上の分析は、ある程度まで日本人学習者の手助けとなることができるが、中級以上のレベルになると、新たに次の 2 つの点が問題となってくる。

2. 2. 1 まだ行われていない動作の目的語に数量詞を使うか使わないか。例えば、

(11a) 请你帮忙吧。(手伝ってください)

(11b) 请你帮个忙吧。(手伝ってください)

(12a) 明天我给你打电话。(明日君に電話をする)

(12b) 明天我给你打个电话。(明日君に電話をする)

(13a) 咱们得想办法解决。(私たちが解決する方法を考えなくては)

(13b) 咱们得想个办法解决。(私たちが解決する方法を考えなくては)

上の例文 a と b の違いは目的語の前に数量詞があるかないかであるが、意味はほとんど変わらない。同じ意味なのに、1 つは数量詞があり、1 つは数量詞がないのはなぜか、研究でもまだ明らかにされていない。

郭：日本人にとって難解な中国語文法について

2. 2. 2 次の動詞は、動作は行われていず、目的語も所有でも存現でもなく、修飾語もないのに、なぜ数量詞が必要なのか。

(14) 我给你提个醒。(念のために言ってあげる)

\* 我给你提醒。

(15) 这真不像一个家。(ここは本当に家とは言えない)

\* 这真不像家。

(16) 请你做个人情, 帮个忙吧。(お情けをかけて, 助けてください)

\* 请你做人情, 帮忙吧。

上の例文に数量詞の“个”が目的語の前になぜ必要なのかと学生からよく質問を受けるが、現在はまだ研究がなされておらず、答えられない用法の1つである。

### 3. 語気副詞

語気副詞は中国語の特色の1つと言える。日常よく使われるので、避けられない文法用法の1つである。ところが日本語には対応する語気詞があまりないので、日本人の学習者は語気副詞をなかなか使えない。

また、中国語は似たような語気詞がたくさんあり、辞書はあくまでも意味上の説明にとどまり、用法の説明や同類語気詞との差異についての説明がほとんどないので、学習者は意味がわかっても正しく使えない、あるいは使っても間違えることが多い。

それから、具体的な意味を持たない語気詞について、中国人教師は辞書の通りによく「強調する」と説明するが、一体何を強調するか、いつ強調すべきか、いつ強調すべきではないかということになると、説明できない。

例えば“就”について、『現代汉语词典』は「断固とした語気、決心する語気」と「事実がそうであることを強調する語気」と説明している<sup>3)</sup>。例文は:

---

3) 『現代漢語詞典』修訂本 1996 p. 678

(17) 我就不信我学不会。(僕は自分が出来ないとは絶対信じない)

(18) 那就是他的家。(あそこが彼の家だ)

以上の説明によって、学生は「断固とした気持ち」を表す時と事実を強調する時なら、“就”を使えると思ひ、次のような誤文を作ってしまう。

(19) 来年絶対にあの大学に合格する。(決心の語気)

\* 明年我就要考上那个大学。

(20) 彼らは結婚したよ。(事実がそうであることの強調)

\* 他们就结婚了。

それから、“倒”という語気副詞は『現代汉语八百詞』では次の7種類の語気を表すとしている。①一般情理と相反する語気、②事実と相反する語気、③意外と感じる語気、④逆接の語気、⑤譲歩の語気、⑥緩和の語気、⑦問い詰めたり催促する語気<sup>4)</sup>。

情理や事実と相反する語気はどう異なるのか、逆接する語気と譲歩する語気はどう違うのか、なかなか理解しにくい。上級の学生はわかっても使えない、或いは次のような誤文を作ってしまう。

(21) 昨日私は彼が家にいると思ったので、彼を訪ねたが、彼はなんと家になかった。(意外と感じる語気を表す)

\* 昨天我想他在家, 就去找他, 他倒没在家。

(22) 早く食べなさい, 食べなさい。(催促する語気)

\* 你倒吃, 吃吧。

語気副詞の“才”も使いにくい虚詞の1つである。『現代汉语词典』には「話し言葉を強調する」という説明だけで、例文は“麦子长得才好呢!”(麦が立派に育っているよ)<sup>5)</sup>だけである。『現代汉语八百詞』には「確定を強

4) 『現代漢語八百詞』増訂本 1998 p. 153-154

5) 同 3. p. 114

郭：日本人にとって難解な中国語文法について

調する語気」という説明で、例文は“这才好呢!”(これこそいいよ)<sup>6)</sup>だけである。この2つの説明は上の“就”についての説明とあまり違いがない。果たして、話し言葉を強調したい時、いつも“才”を使ってもよいだろうか。次の学生の誤文を見ていただきたい。

(23) 日本の大学では2つの外国語を勉強しなければならない。

\*日本大学才得学习两种外语。(外国語を2つ勉強することを強調する)

(24) 私達の大学には50人もの留学生がいる。

\*我们大学才有五十个留学生。(50人の留学生を強調する)

他の語気副詞“都”“又”“可”“竟”なども日本人にとって意味はわかっても使いにくい虚詞である。

#### 4. 重ね型

重ね型も中国語の大きな特徴の1つである。名詞、動詞、形容詞、副詞、数詞、量詞が、ほとんど重ねて使うことができる。しかし、日本語は単語ごとの重ね型がないので、日本人学習者にとっては重ね型の役割と意味がわかってもあまり使えない。或いは使ってもよく間違える。

##### 4. 1 動詞の重ね型

4. 1. 1 学生はよく“这个点心,你尝尝。”(このお菓子を味見してください)、“来,你坐坐。”(さあ,どうぞちょっと座ってください)を真似して、次のような誤文を作ってしまう。

(25) \*这个点心,你吃吃。(このお菓子をちょっと食べて)

(26) \*这个茶,你喝喝。(このお茶をちょっと飲んで)

(27) \*来,你站站。(さあ,ちょっと立って)

---

6) 同4. p. 108

(28) \*来, 你做做。(さあ, ちょっとやって)

なぜ“这个点心, 你尝尝。”と言えて, (25) (26) は言えないのか。なぜ“来, 你坐坐。”は言えるが, (27) (28) は言えないのか。范方莲 (1964)<sup>7)</sup>, 刘月华 (1983)<sup>8)</sup> の重ね型ができる動詞とできない動詞の分析によると, “吃”“喝”“站”“做”などは重ねることができる動詞である。例えば, “吃吃看” (食べてみる) “喝喝看” (飲んでみる) “站站看” (立ってみる) “做做看” (やってみる) なら言える。しかしなぜ (25~28) のような重ね型が言えないのか, 中国語の専門家によっても明らかにされていない。ましてや日本人の学習者である。

4. 1. 2 中国語の重ね型は主に動作の軽さや短さを表し, 日本語の「ちょっと」にあたるということが文法書によく書かれている。しかし, 次の日本語は「ちょっと」の意味はなく, 動作が軽いわけでもない。むしろ「もっと」「慎重に」することを強調するのに, なぜ重ね型で表さなければならぬのか。

(29) この問題は簡単ではないので, もっと考えてください。

\* 这个问题不简单, 你再想。

○这个问题不简单, 你再想想。

(30) 必ずあるよ, もっと探してください。

\* 一定有, 你再找。

○一定有, 你再找找。

(31) この問題についてもっと検討しなさい。

\* 这个问题你们再研究。

○这个问题你们再研究研究。

「もっと」を表す“再”の後に, 動詞は単独で使いにくいのだが, 学生は日本語の感覚で, そのまま動詞を訳せばよいと思いがちである。

7) 范方莲 1964 〈试论所谓“动词重叠”〉

8) 刘月华 1983 〈动词重叠的表达功能及可重叠动词的范围〉



郭：日本人にとって難解な中国語文法について

“你再想”ではなく，“你再想想”“你再想一下”（ちょっと考えてください）或いは“你再想吧”（もっと考えましょう）のように言わなければならない。他には「もっと休みなさい」「もっと横になってください」は“你再休息”“你再躺”ではなく，“你再休息休息”“你再休息一下”“你再休息吧”か“你再躺躺”“你再躺一下”“你再躺吧”と言うべきである。

4. 1. 3 逆に日本語に「ちょっと」があっても、中国語では動詞の重ね型を使えない場合もある。例えば、

(32) 私は昨日ちょっと勉強した。

\*我昨天学习学习了。

○我昨天学习了一点儿。

(33) 明日ちょっと買い物に行く。

\*明天我去买买东西。

○明天我去买点东西。

(34) ちょっと電話をします。

\*我打打电话。

○我打一下电话。

4. 1. 2と4. 1. 3は、一方では「もっと」「慎重に」であるのに、重ね型を使わなければならない。一方では「軽い気持ち」なのに、重ね型を使えない。日本人の学習者は混乱するばかりである。教師は直せるが、文法や用法の説明ができないので、学生はこの重ね型の役割はわかるが、あまり使わないようである。

4. 1. 4 また、動詞の原型と重ね型の違いがわかりにくい場合もある。次の例文でaとbはどう違うのか。

(32a) 你好好想。(ちゃんと考えて)

(32b) 你好好想想。(ちゃんと考えて)

(33a) 你慢慢研究。(ゆっくり研究して)

(33b) 你慢慢研究研究。(ゆっくり研究して)

動詞の前に状語がない場合は、動詞が重ね型かそうでないかの違いはよく理解できるが、状語があると、違いが理解しにくくなる。特に形容詞の重ね型は状態を強調するニュアンスが含まれるので、さらに動詞を重ねる必要があるかという疑問を抱える学生が多いようである。その他の例、“你认认真真考虑”“你认认真真考虑考虑”(君はまじめに考えなさい)“你好好休息吧”“你好好休息休息吧”(ゆっくり休みましょう)“你快点儿打扫吧”“你快点儿打扫打扫吧”(早く掃除しなさい)など。

#### 4. 2 形容詞の重ね型

4. 2. 1 形容詞の重ね型は副詞になり、動詞の前に置き、様子や状態を強調するということは一般の文法書や教科書に書かれている。そのため、日本人の学習者は“你快快吃。”(早く食べなさい)“你慢慢说。”(ゆっくり話してください)“你好好做。”(ちゃんとやりなさい)“你认认真真学。”(まじめに勉強して下さい)のような例文を習った後で、よく次のような誤文を作ってしまう。

(34) 早めに食べなさい。

\* 你早早吃。

(35) 遅く来てください。

\* 你晚晚来。

(36) たくさんやってください。

\* 你多多做。

(37) 短く切ってください。

\* 你短短剪。

上の文の一体どこがいけないのだろうか。以上の形容詞は重ね型を使えないのかということ、そうでもない。例えば“早早”は助詞“地”と、

目的語をつけて、或いは動詞を変えて、“早早地吃饭”（早くご飯を食べる）“早早地起来”（早く起きる）とすることはできる。“多多”も動詞を変えて、“多多练习”（たくさん練習する）“多多锻炼”（たくさん鍛える）のように言うことはできる。“短短”も助詞“的”をつけて、後に名詞を置いて、“短短的一年”（短い1年）“短短的一篇文章”（短い文章）のように言うことはできる。

李大忠（1984）<sup>9)</sup>は重ねられる形容詞と重ねられない形容詞を分析したが、重ねられる形容詞（例34, 36, 37）もどんな時、どんな場合に重ねられないかという問題はまだ残っている。日本人学習者にとって頭が痛い所ではないだろうか。

4. 2. 2 また、形容詞の重ね型を使うか使わないかによって、意味的に、一体どう異なってくるのか。日本人の学習者にとってはかなり理解しにくいと思う。例えば、次の例文のaとbはどう違うか、ネイティブの中国語教師さえも説明できないのではないだろうか。

(38a) 他非常恭敬地站在我们面前。(彼は非常に礼儀正しくわれわれの前に立っている)

(38b) 他恭恭敬敬地站在我们面前。(彼は非常に礼儀正しくわれわれの前に立っている)

(39a) 他的字写得工整。(彼が書いた字は大変きれいだ)

(39b) 他的字写得工工整整的。(彼が書いた字は大変きれいだ)

(40a) 他留着很长的头发。(彼は髪をととても長く伸ばしている)

(40b) 他留着长长的头发。(彼は髪をととても長く伸ばしている)

もともと日本語には形容詞の重ね型という用法がないので、日本人に馴染みがないのは無理もないが、使う使わないの区別についての説明がないと、中国語を学ぶ外国人は以上のような使い分けはいつまでたって

9) 李大忠 1984 〈不能重叠的双音节形容词〉

もできないであろう。もちろん中級以上の学習者は形容詞の重ね型が状態や様子を強調し、もっと慎重にするという表現であることはわかるが、実際の会話ではなかなか使えないようである。

## 5. 補語の使い方

中国語の補語は英語や日本語の補語とはかなり異なる。しかも、補語は中国語において、複雑であるが、よく使われる文法表現である。補語に関する研究は近年来かなり進んでおり、外国語としての中国語教学もずいぶん改善されたと言える。特に劉月華の『趋向补语通释』は詳しく方向補語の用法について分析しており、学習者が抱える問題が多少なりとも解決されたのはこれに負うところが大きい。

しかしそれでもなお、補語はかなり複雑な文法表現であり、方向補語以外に、結果補語、可能補語、状態補語、程度補語、時間場所補語などがあり、それぞれをマスターするのは容易ではない。特に結果補語の作り方、方向補語と非場所目的語の位置の問題、可能補語と可能を表す能願動詞との違いについて、教える側も学習する側も骨が折れる。

### 5. 1 結果補語の作り方

日本語は動作の方式よりも結果を重視するために、動作の結果だけで表現するのが一般的である。例えば、「宿題が終わった」「ご飯が終わった」「論文が終わった」のように「終わった」という動詞だけで示す。その過程に行われた具体的な動作を言う必要がない。しかし、中国語に訳して、「作业完了」「饭完了」「论文完了」とは言えない。具体的な動作と動作の結果を表す単語が必要なのである。例えば、「終わった」だけではなく、「やり終わった」「食べ終わった」「書き終わった」のような表現が必要で、「作业做完了」「饭吃完了」「论文写完了」と言わなければならない。他に「倒れた」も“倒了”だけではなく、その場その場で行われた動作が必要である。例えば、“跌倒了”(転んで倒れた)“撞倒了”(ぶつかって倒れた)

郭：日本人にとって難解な中国語文法について

“碰倒了”（ぶつかって倒れた）“摔倒了”（転んで倒れた）“刮倒了”（風に吹かれて倒れた）など。「わかった」も“懂了”だけではなく，“听懂了”（聞いてわかった）“看懂了”（読んでわかった）というのが普通である。次の例文を見ていただきたい。

- (41) 郭先生の宿題は終わったが、李先生のはまだ終わってない。  
\* 郭老师的作业完了, 李老师的还没完。  
○ 郭老师的作业做完了, 李老师的还没做完。
- (42) 昨日、めまいがして、もう少しで倒れそうになった。  
\* 我昨天头晕差点儿倒了。  
○ 我昨天差点儿晕倒。
- (43) あの文章が君はわかったか。  
\* 那篇文章你懂了吗?  
○ 那篇文章你看懂了吗?

また、日本語では動作だけでも結果を表すことができる。例えば「ドアを閉める」「着物を着ている」「帽子をかぶる」など。ところが、中国語は結果をもたらしている動作は単独で使いにくい。例えば、

- (44) ドアを閉めてください。  
\* 请你把们关。  
○ 请你把们关上。
- (45) 彼は背広を着て、すぐ出かけた。  
\* 他穿西服, 就出去了。  
○ 他穿上西服, 就出去了。
- (46) 帽子を取ってから、お辞儀をしなければならない。  
\* 你得脱帽子再行礼。  
○ 你得脱下帽子再行礼。

以上述べたように、中国語はよく動作と結果を表す補語と一緒に使われるが、日本語は必ずしもそうではないので、なかなか馴染めない。特に結果を表す補語について、どんなものを使えばいいか、わかりにくいようで

ある。例えば，“上”という結果補語は「動作の後に，動作とかかわる対象か目的語がついていることを表す」という説明だが，次の例文はその「ついていること」ではないのに，なぜ使うのだろうか。

- (47) 100元を使って，何か買って彼女にあげたら。  
花上一百块钱，买点儿什么送给她吧。
- (48) 彼はもう既に彼女に惚れた。  
他已经爱上她了。
- (49) 電話を切った後に，彼女は泣き出した。  
挂上电话后，她哭了。

このように，日本人学習者にとって，結果補語の作り方の法則はなかなか理解しにくい。

## 5. 2 複合方向補語と非場所目的語の位置

複合方向補語と非場所目的語が結合する時，その語順が3つあることはよく知られている。例えば，

- (A) 他拿出一本书来。(彼は本を1冊出してきた)  
(B) 他拿一本书出来。(彼は本を1冊持って出てきた)  
(C) 他拿出来一本书。(彼は本を1冊出した)

この3つの用法の違いについて陸儉明 (2000)<sup>10)</sup> と劉月華 (1998)<sup>11)</sup> が分析している。陸 (2000) は文法上の違いを詳しく説明したが用法の違いについては分析していない。劉 (1998) は (A) (B) は未然も已然も使えるが，(C) は已然のことにしか使えないと分析した。

結局，この3つの文型はそれぞれどのような状況で使うのか，学生には

---

10) 陸儉明 1999 〈动词后趋向补语和宾语位置问题〉

11) 劉月華 1998 《趋向补语通释》 p. 42-44

郭：日本人にとって難解な中国語文法について

わからない。単に既に行われたか行われていないかという条件ではこの問題を解決できない。特に (A) (B) は両方ともに行われたことにもまだ行われていないことにも使える。例えば、

- (51) 明天请你带一本杂志回来。  
(明日雑誌を1冊持って帰って下さい)  
(52) 昨天他带一本杂志回来了。  
(昨日彼は雑誌を1冊持って帰って来た)

また、同じ過去に行われたことで、(B) と (C) はどう違うか。例えば、

- (53) 昨天他买了一本杂志回来。  
(昨日彼は雑誌を1冊買って帰って来た)  
(54) 昨天他买回来了一本杂志。  
(昨日彼は雑誌を1冊買って帰って来た)

このように似た表現は日本人学習者にとって、かなり難しいようである。

### 5. 3 可能補語と能願動詞の違い

日本語の可能表現は「…できる」「…れる・られる」などがあるが、能力や条件、許可の区別なしで使えるということである。一方中国語で可能不可能の表現は、可能補語と可能を表す能願動詞を用いて表すが、能力や条件、許可によって、使い方が違ってくる。この可能補語と能願動詞の用法がどう違うのか、学生はなかなか理解できず使えない。可能補語を使うべき所に、能願動詞を使い、能願動詞を使うべき所に可能補語を使ってしまふ。例えば、

- (55) 母の恩が忘れられない。  
\*妈妈的恩情, 我不能忘。  
○妈妈的恩情, 我忘不了。  
(56) ちゃんと勉強しないと、あの大学に受からない。

- \* 你不好好学习, 不能考上那所大学。
- 你不好好学习, 考不上那所大学。
- (57) 彼らは会議中なので, 入ってはいけない。
  - \* 他们在开会, 你进不去。
  - 他们在开会, 你不能进去。
- (58) われわれはもう20歳になったから, 酒を飲めるよ。
  - \* 我们已经20岁了, 喝得了酒。
  - 我们已经20岁了, 能喝酒了。

また, 能願動詞と可能補語を一緒に使う場合もある。例えば, “你能听得懂吗?” (あなたは聴いてわかるか) “他能来得了吗?” (彼は来られるか)。これは日本人の学生がさらに躊躇する用法である。

結局, 中国語に可能不可能を表すには次の3通りあるということになる。

- A: 你能听懂吗? (聴いてわかるか)
- B: 你听得懂吗? (聴いてわかるか)
- C: 你能听得懂吗? (聴いてわかるか)

劉月華 (1980) は「能力, 客観条件, 可能性があることを能願動詞で, 許可を可能補語で表す。」<sup>12)</sup> と述べているが, 上のA, B, Cは許可ではなく, 能力を表しており, 3つの用法はどこか違うのだろうか。

それについて, 劉 (1980) は「主観客観のできることは能願動詞で, あまり自信がない肯定は可能補語, 中間は両方を使う」という説明だが, 実際, 上のA, B, Cを見ても, 3つはどれが主観か客観かわからないし, またBは自信がない肯定と言えるのだろうか。それから, 中間というものは更にわかりにくい。

そして, 不可能という否定の表現は更に複雑になり, 学生は混乱しがちである。例えば,

---

12) 劉月華 1980 〈可能補語用法的研究〉



- (59) 私は聴いてわからない。  
\* 不能听懂。  
○我听不懂。
- (60) 私はこれらの料理を全部食べきれない。  
\* 我不能吃完这些菜。  
○我吃不完这些菜。
- (61) あそこは車を止められない。  
\* 那个地方停不了车。  
○那个地方不能停车。
- (62) 今日私は歯が痛いので、これを食べられない。  
\* 今天我牙疼, 吃不了这个。  
○今天我牙疼, 不能吃这个。

なぜ“我能听懂。”(私は聴いてわかる)“我能吃完这些菜。”(これらの料理を全部食べきれる)と言えるが、\*“我不能听懂。”“我不能吃完这些菜。”とは言えないのか。実は、“不能”は「能力がない」「条件が合わない」「不許可」という3つの意味がある。例えば、

- (63) 我不能当翻译。(私は通訳になれない)  
(64) 明天我不能去。(明日私は行けない)  
(65) 这个钱是他的, 不能给你。(このお金は彼の、君にあげられない)  
(66) 十六岁不能开车。(16歳では車の運転ができない)

しかし、なぜ「能力がない」の“我不能听懂。”と“我不能吃完这些菜。”は“不能”を使えないのか。これも可能補語と能願動詞の難点である。

## 6. 難解さの原因

以上に述べた日本人にとって難解な中国語文法はレベルとしては中級以上の問題だと思われる。もちろん虚詞の使い方も難しいが、中級になると、中国語にも慣れ、何とか使えるようになると思う。本論文に述べた難解な

中国語文法をなぜ中級以上の学生はマスターしにくいのか。それは次のようないくつかの原因があると思われる。

### 6. 1 日本語にない文法表現

外国語を学ぶ時に、一番マスターしにくいのはやはり自分の母語にない文法用法である。日本語にない中国語の文法表現が日本人学習者にとって難しいのは当然である。例えば、上に述べた数量詞と抽象名詞の組み合わせや、「一＋数量詞」、語気副詞、重ね型、補語の使い方である。読む時には、なんとか理解できるが、会話の時にはなかなか使えないのではないだろうか。

### 6. 2 意味が同じ2つ以上の文法表現

いかなる言語も同じ意味を異なった文法表現で表すことがある。これは外国人が学ぶ時に、かなり苦勞する。意味は同じだが、異なる表現の区別について、ネイティブにとってはそれほど気にならないが、その言語を学ぶ外国人にとっては戸惑うところである。上に述べた「一＋数量詞」を使うか使わないかの区別、重ね型を使うか使わないかの区別は日本人学習者にとっては頭でわかっていても、使いにくいところだと思う。

### 6. 3 説明不足だったり、研究されていない文法表現

外国語を学ぶ時、辞書や文法書の説明や例文にしたがって勉強したり、文を作ったりすることは言うまでもない。しかし、辞書や文法書は説明が簡単すぎて、学習者が作った例文が誤文になることが多々ある。例えば、上に述べた語気副詞の“就”“才”“又”“倒”などの説明はあまりにも簡単すぎて、学習者にとって親切とはいえない。

そのように説明不足なところは、ネイティブの中国人にとってはそれほど難しくなくても、日本人にとっては大変厄介なものである。この20数年来、外国人のための対外中国語教学文法の研究がやっと注目されてきた。例

郭：日本人にとって難解な中国語文法について

えば、虚詞“了”“着”“过”“在”“把”“也”などについての研究結果は日本人を含む外国人学習者にとって大変役に立ったと言える。しかし、日本人にとってわかりにくく、使いにくい文法表現についての研究はまだそれほど多くなされていないので、教える側も習う側も困っているのは違いない。例えば上に述べた4つの難解点もその通りである。

## 7. 結 び

本論文に述べた4つの難点は学生の誤文から分析したものである。また、日頃学生によく質問される問題でもある。これらの問題についてはずいぶん長い間分析し、研究してきたが、未だに結論が出ないまま、諸先生方のご教示を求めるために本文を書いた。

数量詞はかなりの部分はすでに研究されており、「一+数量詞」についての研究は教学にずいぶん役立っている。課題は2. 2. 1の使っても使わなくてもよい場合がいかにより異なるかと、2. 2. 2の使わなければならないのがどのような場合かという2つと思われる。

語気副詞と重ね型は話者の気持ち、語気と関係があり、表現は日本語と異なる点が多く、日本人学習者にとって使いにくいのは確かである。しかし、その表現法についても日本人学習者は読む時はそれほど難しくなく、理解できると思う。問題はその用法である。重要なのは使うべき場合と使わない場合の分析である。

補語の表現方法は日本語と異なるが、今までの研究成果により、学生は徐々に使えるようになってきている。ただし、5. 1, 5. 2, 5. 3の問題だけはまだ解決されていない。

以上の日本人にとって難解な中国語文法の問題点は将来の解決を待ちたい。本文が「抛砖引玉」の効となれば望外の喜びである。

## 参考文献

1. 吕叔湘等 1999 《现代汉语八百词》增订本 商务印书馆
2. 刘月华 1998 《趋向补语通释》北京语言文化大学出版社

3. 刘月华等 2001 《实用现代汉语语法》商务印书馆
4. 刘月华 1989 《汉语语法论集》现代出版社
5. 陆俭明 马真 1985 《现代汉语虚词散论》北京大学出版社
6. 来思平, 相原茂著 1993 『日本人の中国語 誤用例54例』東方書店
7. 相原茂 1997 『謎解き中国語文法』講談社現代新書
8. 郭春貴 2001 『誤用から学ぶ中国語』白帝社
9. 李大忠 1996 《外国人学汉语语法偏误分析》北京语言文化大学
10. 程美珍 1997 《汉语病句解析九百例》华语教学出版社
11. 郭春貴 1995 「日中両国語の数量詞の用法の相違」『広島修道論集』第35卷第2号
12. 大河内康憲 1985 「量詞の個体化機能」『中国語学』232号 (日本中国語学会編)
13. 中川正之・李俊哲 1992 「日中両国語における数量表現」『日本語と中国語の対照研究論文集 (上)』(大河内康憲編集 くろしお出版)
14. 陆俭明 1988 〈现代汉语中数量词的作用〉《语法研究与探索 4》北京大学出版社
15. 李大忠 1984 〈不能重叠的双音节形容词〉《语法研究与探索 2》北京大学出版社
16. 范方莲 1964 〈试论所谓“动词重叠”〉《中国语文》第4期
17. 刘月华 1983 〈动词重叠的表达功能及可重叠动词的范围〉《中国语文》第1期
18. 刘月华 1980 〈可能补语用法的研究〉《中国语文》第4期

## 日本学生难掌握的汉语语法点

学外语的语法不外有两大难点，一是自己母语没有而该外语有的语法表现形式。二是该外语存在的同意异型的表现形式。日本人学习汉语也同样面对这两大难点。

近几年，中日语言对照研究有了很大的成果，如虚词的“了”“把”“着”等的研究成果，不论对教学者或学习者来说，都有了很大的帮助。不过，日本人难解的汉语语法点仍然不少。

本文主要提出中级班同学经常面对的四个难掌握的语法点：数量词、语气副词、动词形容词的重叠以及补语的一些难掌握的用法。这些问题都是笔者多年教学中的一点儿经验总结，大多是从学生的病句中总结出来的。在此提出，与诸位同行老师共同研究。

1. 汉语数量词的用法对日本学生来说，看似容易，实际上却是个大难点。汉语里数量词的一些表现形式与日语不相同，比如数量词跟抽象名词搭配的问题。由于日语里抽象名词不用数量词，故学生对数量词跟抽象名词的搭配就难掌握。另外日语里对不言能喻的单数宾语，一般都不用数量词，可汉语却都得使用“一+量词”。比如日语「家の前に川がある」，汉语就得说“我家前边儿有一条河”。再比如日语「明日電話をします」，汉语里可以说“明天给你打电话”，也可以说“明天给你打一个电话”。究意这个“一个”用与不用有何区别？

2. 说汉语的人常用语气副词来表达自己的感情，可以说语气副词是汉语一大特点。可日语却没有这种表达形式，加上词典与语法书的说明过于简单含糊，造成学生不易掌握。比如“现代汉语词典”里对语气副词“就”的解释为「强调事实如此」，对“才”的解释是「强调所说的事」。两个解释大同小异，于是学生就无法区别。为了强调“他们已经结婚”这一事实，就造出“他们就结婚了”。为了强调“学习两种外语”这个事实，就说“我们才得学

习两种外语。”其他“又”“倒”等语气副词也是日本学生难掌握的。

3. 重叠也是汉语里的一大特点。学习汉语的人都知道它是表示时短量少，可有时却又表示慎重。比如“我看看”“你想想”表示轻微。“你仔细看看”“你好好想想”却表示慎重。究竟什么时候表示轻微，什么时候表示慎重呢？还有形容词的重叠一般表示强调慎重，那么跟使用程度副词来强调有何不同呢？比如“他恭恭敬敬地站在那儿”跟“他非常恭敬地站在那儿”究竟有何不同？不要说日本学生，就是教汉语的中国老师也说不出一个所以然。

4. 补语也是日本学生头疼的语法点。首先是结果补语的组成结构，对日本学生很陌生。比如「壊す」这个动词，汉语里可译成“弄坏”“搞坏”“打破”等。究竟那个合适，学生老是弄不清。还有复合趋向补语跟非处所宾语的位置问题也令学生糊涂。究竟“拿一本书出来”“拿出一本书来”“拿出来一本书”在用法上有什么不同？另外，可能补语跟表示可能的能愿动词的用法有何不同？“你能听懂吗？”“你听得懂吗？”“你能听得懂吗？”究竟有何不同？

以上四个难点，不只是学生难掌握，也是我们当老师的难教之处。老师尚且讲不出一个所以然来，学生肯定难以理解，更谈不上使用了。本文乃笔者多年来总结的一点儿问题，希望能作为抛砖引玉，获得各位同行的赐教。